

## 小田原市観光戦略ビジョン（案）に対する市民意見の募集結果について

### 1 意見募集の概要

政策等の題名	小田原市観光戦略ビジョン（案）
政策等の案の公表の日	平成28年2月1日（月）
意見提出期間	平成28年2月1日（月）から平成28年3月1日（火）まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布（市内公共施設、ホームページ）

### 2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	102件（11人）
インターネット	0人
ファクシミリ	0人
郵送	11人
直接持参	0人
無効な意見提出	0人

### 3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、ビジョンに反映したもの	7
B	意見の趣旨が既にビジョンに反映されているもの	74
C	今後の検討のために参考とするもの	12
D	その他（質問など）	9

〈具体的な内容〉

(1) 序章 観光戦略ビジョン策定の趣旨 に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	「方針を明らかに共有する」ことが目的であり、読み手がわかる具体的な言葉、定義が必要ではないか。	B	本ビジョンでは、策定の背景と目的を記載しており、説明が必要な語句等については、各項下段に補足説明を記載するなど、趣旨を反映しています。
2	小田原は観光側面を無理やり大きくし、観光によって雇用創出・地域活性化ににわかにつながるようなことを考えない方が良い。	D	本ビジョンは、交流人口の最大化を図り、観光を通じた資金の獲得と地域内循環につながることを目的としています。
3	ビジョン策定後、具体的施策や実行計画を作ることと思うが、いつどの様なものが作られていくのか。	D	平成28年度に本ビジョンの上位計画である総合計画の後期基本計画が策定される予定ですので、ビジョンに位置付けられた観光施策も総合計画の実施計画の中で取り組んでいきます。
4	何の事業にどのくらいの金、人、ものを使用したのか明確にすべきである。	D	事業予算については、上位計画である総合計画の実施計画において定められるものですが、過去の事業についても、総合計画のローリングの際に評価がされています。
5	中心市街地のまちづくり、景観づくりを最優先におこなうべきである。	B	中心市街地のまちづくりについては、中心市街地活性化基本計画、景観づくりについては、景観計画が策定されており、当ビジョンもその方向で取り組んでいきます。
6	お城までの道を城下町の風情にすべき。	C	建物等の景観については、商店など民間の理解と協力が不可欠であり、都市計画の視点で検討していきます。
7	白壁や格子戸、瓦屋根等の古の情緒を醸し出している町並み整備が良いのではないか。	D	中心市街地のまちづくりについては、中心市街地活性化基本計画、景観づくりについては、景観計画が策定され、今後もその中で取り組んでいきます。
8	小田原漁港周辺の駐車場が不足しているため、水産卸売市場を改築し、施設屋上に駐車場を設けるなど早急な対策が必要。	B	小田原漁港周辺の整備については、提案の方向で上位計画である総合計画の中で検討していきます。

9	観光課を部に昇格させるとか、増員するなど、行政側の組織、体制を明示すべきではないか。	C	本ビジョンは、総合計画や地域経済振興戦略ビジョンを上位計画とした個別計画として位置付けており、観光に関わる多様な主体が同じ方向を向き、観光分野から地域経済の活性化を実現していくための指針として策定するものであるため、行政組織内の体制については、庁内の組織機構の中で総合的に検討していきます。
10	市民の声をさらに取り上げて作成することが必要ではないか。	D	市内の観光関連団体をはじめとする多様な主体が参画する、観光まちづくり懇話会において意見を伺うとともに、市民からも意見をいただくため、市民意見の募集（パブリックコメント）を実施しています。

(2) 第1章 小田原の特性と現状・課題 に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	観光スポットやイベントの記載に抜け漏れがあるのではないか。	B	観光スポット・イベント等の観光資源は抜粋であり、全てを網羅した記載を意図したものではありません。
2	これまで小田原市として、何をやってきたのか、それに対する反省点は何かを追記すべきである。	B	本ビジョンでは、観光の現状と、観光の課題として整理しています。

(3) 第2章 観光戦略ビジョンの基本的な方針 に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	羅列された取組事案で果たして年5.7%の観光客増、消費単価年4.5%は達成できるか疑問である。	D	目標の値は、小田原市観光戦略ビジョン策定会議において、観光に関する多様な団体からの意見を反映したものです。また、羅列した取り組み内容は、経済を観光の視点で整理したものであり、民間の取り組みも含め、事業としては今後も増えていくものと考えています。
2	本当に小田原を好きで来訪してくれる潜在的なリピーターにターゲットを絞って、一人あたり観光消費の拡大を図ることが望ましい。	B	本ビジョンの目標値として、一人あたりの観光消費の拡大を記載し、その中で進めていきます。

3	目標の観光消費額440億円、これを達成することで私たちの生活がどのように変わるのか。	D	交流人口の拡大により、現状よりも地域経済の活性化につながると考えます。
4	エリア別の目標も入れるべきである。	C	本ビジョンは、市域全体の指針であるため、エリア別の目標は定めない考えです。
5	小田原をどのようにしたいのかイメージが湧かない。具体的な小田原のイメージを記載する必要がある。	A	本市が目指す将来像として、サブストーリーを設定し、追記しました。
6	すべての施策を、「観光は、非日常の創出である。」という観点から、作成すべきではないか。	B	本ビジョンでは、本市として提供したい価値を含めた「ストーリー」と、観光振興を通じて「目指すべき姿」を設定し、非日常の創出を含めた視点で施策の柱としています。
7	城内において散発的に大小のイベントが開催されているものの、常設の観光資源、誘客対策として更に施策を打つことが必要ではないか。	B	観光振興を通じて、目指すべき3つの方向性の一つに、なりわいや歴史・文化といった城下独自の光を活かした「まち歩き観光」の推進を大きな柱としていきますと定め、今後、日常の観光を進めていくこととしています。
8	短期間の行事に加え、年間を通して大勢の方々にお越しいただき、経済効果を上げることが大切ではないか。	B	観光振興を通じて目指すべき3つの方向性の一つに、なりわいや歴史・文化といった城下独自の光を活かした「まち歩き観光」の推進を掲げ、今後、日常の観光を進めていくこととしています。
9	市民の意識を変えていく戦略が必要ではないか。	B	本ビジョンでは、目指すべき方向性の一つとして、市民一人ひとりの「小田原自慢が聞けるまち」と定め、ロードマップに施策を位置付けています。
10	もっと積極的に市民に「小田原は「観光地」であると発信すべき。	B	観光まちづくりへの市民参画の促進として、施策の柱に位置付けています。
11	地域の子供たちが、小さいうちから地域の文化や歴史、偉人たちを学べる機会を創出し、地域愛を底上げする。	B	観光まちづくりへの市民参画の促進として、施策の柱に位置付けています。

(4) 第3章 観光戦略ビジョンに基づく施策 に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	オリンピックまでに新規ファンを増やし、オリンピックの後の苦しい期間を、リピーターでカバーする作戦が必要ではないか。	B	本ビジョンでは、対象期間後も見据えて、各観光コンテンツの充実化を図り、また、優先ターゲットをリピーター化し、ひいては本市に住みたいと思うファンを増やしていくことを記載しています。
2	ビジョンの華（柱）となるコア事業の明示、概算投資（予算）計画が必要ではないか。	B	本ビジョンでは、課題等を整理し、優先的に取り組む施策をリーディングプロジェクトとして位置付けています。また、概算投資（予算）については、上位計画である総合計画の後期基本計画で検討していきます。
3	何を、どのように、いつまでに、事業規模（予算的裏付けも含め）、強弱、特に何を強調したいのか、訴えたいのか、それがなぜ必要なのか謳うことが必要である。	B	事業予算については、上位計画である総合計画の後期基本計画の中で検討するとともに、事業規模等については、総合計画の実施計画の中で明記していきます。また、重要な取り組み等については、リーディングプロジェクトに位置付けています。
4	具体的事業については、最重要・重要・3番手といった色分けが必要ではないか。	B	本ビジョンでは、取り分け重要な取り組みをリーディングプロジェクトとして位置付けています。
5	ファン倍増の達成責任と評価はビジョン作成者にあるので、責任体制の明確化も必要ではないか。	B	本ビジョンの記載内容についての最終的な責任は、作成者である小田原市にあります。また、本ビジョンに掲げる施策や進捗管理等については、官民行政が連携した「観光プラットフォーム（地域 DMO）」を創設し、その観光推進体制の中で行っていく考えです。
6	市として DMO にどう関わるのか、観光課だけでなく、環境、文化、教育、インフラの各セクションとそれをまとめる体制を明記する必要があるのではないか。	C	官民が連携した「観光プラットフォーム（地域 DMO）」を創設していきますが、まずは観光課が行政側の窓口となり、庁内の連携を図り対応してまいります。
7	地域 DMO の人員規模を盛り込むべきではないか。	A	リーディングプロジェクトの項（①観光推進体制の強化）の詳細に、地域 DMO に新たに配置が必要な人材要件の例を追記しました。 なお、具体的な人員規模については、地域 DMO 創設の準備期間（平成 28 年度）の中で、検討していく考えです。

8	観光地域づくりの担い手の中核となり得る人材育成を実施すべき。	B	「観光プラットフォーム（地域DMO）」の持つべき機能として、位置付けています。
9	ターゲットとなる年代ごとにもその構成となる要素を加味する必要があるのではないか。	B	「観光プラットフォーム（地域DMO）」によるマーケティング調査、分析を今後行い、世代構成なども加味していく考えです。
10	「営業・広報の強化」とあるが、その前にマーケティング系統の能力開発が必要ではないか。	A	リーディングプロジェクトの項（①観光推進体制の強化）に、地域DMOに新たに配置が必要な人材要件の例として、マーケティング系統の専門性を追記しました。
11	小田原駅の観光案内所のリニューアルと拡大強化が必要ではないか。	B	今後創設される「観光プラットフォーム（地域DMO）」の中で、観光案内所の機能強化等については検討していく考えです。
12	回遊プランを用意し、誘客につなげるようにすべき。	B	まち歩き観光の推進として、リーディングプロジェクトに位置付けています。
13	一日そこに居ても楽しめるようなストーリー性がある体験型観光スポットが必要。	B	まち歩き観光の推進として、リーディングプロジェクトに位置付けています。
14	高齢者でも楽しめるウォークラリーの整備が必要。	B	まち歩き観光の推進として、リーディングプロジェクトに位置付けています。
15	国内外に関わらず、年齢層に応じた観光スポットを作る観光環境整備が必要。	B	まち歩き観光の推進として、リーディングプロジェクトに位置付けています。
16	各スポットで歴史や文化の情報が携帯で取れると良い。	B	まち歩き観光の推進として、リーディングプロジェクトに位置付け、まち歩きアプリの開発・運用をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
17	小田原城址公園及びその近隣に梅林を増やす。	B	小田原城の魅力向上はリーディングプロジェクトに位置付けていますが、城址公園内の新たな樹木の植栽については、このビジョンとは別に植栽計画を策定する予定です。
18	小田原城址内に植栽は必要ないのではないか。	B	小田原城の魅力向上はリーディングプロジェクトに位置付けていますが、城址公園内の新たな樹木の植栽については、このビジョンとは別に植栽計画を策定する予定です。

19	<p>天守閣や城址公園内の広場の使用条件を緩和し、世界的なスポーツイベントや天守閣で結婚式など、他の街ではできないことを実施する。</p>	C	<p>小田原城の魅力向上はリーディングプロジェクトに位置付けており、天守閣や城址公園内の利活用については今後の取組の中で検討していきます。 また、観光振興に資するものであれば、より積極的な利用を図っていきます。</p>
20	<p>小田原城天守閣内でのパーティー利用の貸し出しができるが良い。</p>	B	<p>小田原城の魅力向上として、リーディングプロジェクトに位置付けており、その中で今後検討していきます。</p>
21	<p>城郭のある自治体とタイアップし、それぞれの城郭入場券の半券で他の城郭を無料する。</p>	B	<p>小田原城の魅力向上として、リーディングプロジェクトに位置付けています。 これまでも、他の城郭と連携し、スタンプラリーを実施しています。</p>
22	<p>学橋に正規登城ルートへの効果的な誘導看板や、馬出門が正規登城ルートである一目でわかるものが必要。</p>	B	<p>小田原城の魅力向上として、リーディングプロジェクトに位置付け、案内板の充実としてロードマップに記載し、その中で進めていきます。 なお、平成27年度事業として設置したところです。</p>
23	<p>本丸広場中央付近にある木々も記念撮影するには邪魔になる。</p>	B	<p>小田原城の魅力向上として、リーディングプロジェクトに位置付けています。また、「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」にも位置付けられています。 なお、本丸広場の植栽については、平成27年度に整理したところです。</p>
24	<p>元々あった「小田原城」、「かまぼこ」、「寄木細工」、「神社仏閣」「浜・海岸・漁港」「山里」の観光資源になるものをブラッシュアップすることが必要ではないか。</p>	B	<p>小田原城の魅力向上や歴史・文化コンテンツの活用推進など、リーディングプロジェクトに掲げ、観光資源のブラッシュアップに努めていきます。</p>
25	<p>神社仏閣を巡るツアーを充実させてはどうか。</p>	B	<p>歴史・文化コンテンツの活用推進として、リーディングプロジェクトに位置付けています。</p>
26	<p>城下町の文化を示す文化財の大多数は倉庫で眠っているため、これらを展示する施設の整備を行政で行い、運営はDMOで行う。</p>	C	<p>歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けており、保管している文化財の展示等の利活用については今後の参考とします。</p>

27	城址公園周辺に忍者の拠点を整備する。	B	歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けており、忍者の拠点整備については、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
28	先進事例を参考に、忍者屋敷など忍者の拠点を整備すべき。	B	歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けており、忍者の拠点整備については、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
29	板橋の「山月」を買い取り、旅館・食事・観光の名所として活用する。	C	歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けていますが、歴史建造物の利活用については今後の参考とします。
30	歴史認識に基づく建造物の早期復活をすべき。	B	歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けていますが、歴史建造物の復元については今後の取組の参考とします。
31	旧保健所跡地、石垣山一夜城などに東京からのアクセスの優位性を活かし、市内に時代劇のロケができる場所を整備する。	B	歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けており、撮影所等の施設整備についてはその中で進めていきます。
32	幕末から明治、大正の時代にわたり、なぜ政財界人や文士などがこのエリアに住処を求めたかを掘り起こすべき。	B	歴史文化コンテンツの活用推進はリーディングプロジェクトに位置付けており、邸園文化コンテンツの活用として今後の取組の中で検討していきます。
33	小田原城、寄木細工、かまぼこ、邸園文化など、100年以上続き、残ってきたものこそ「本物」であり、光を当て、活かすべき。	B	産業観光の推進として、提案の方向でリーディングプロジェクトに位置付けています。
34	観光スポットが点在しているため、観光回遊バスの増便は欠かせない。	B	二次交通の拡充として、リーディングプロジェクトに位置付けています。
35	石垣山一夜城や小田原漁港などを回遊するバスの停留所を人が集まる城址公園本丸広場に設けて、利用促進を図る。	C	二次交通の拡充として、リーディングプロジェクトに位置付けていますが、公園内にバス停留所を設けることは、安全確保の観点などから難しいと考えています。

36	「ぐるりん小田原」の事業拡充に合わせ、自転車専用レーンも整備促進し、自転車で巡る観光プランニングを用意し、回遊性が高まる。	B	二次交通の拡充として、リーディングプロジェクトに位置付けています。
37	蒲鉾の食べ比べや目利き大会などがあると面白い。	B	産業観光の推進として、リーディングプロジェクトに位置付けています。 なお、イベント等の際には、食べ比べなど実施しています。
38	観光外のジャンルとの融合も記していくべき。	B	産業観光の推進として、多種多様な産業を観光資源に積極的に活用し、磨き上げ、小田原ならではの魅力の創出を行っていくことをリーディングプロジェクトに位置付けています。
39	ロードマップについては前期後期だけでなく1年毎にすべきではないか。	C	主体が様々であり、ある程度の期間の中で、できるものから着手していくという考え方により、「前期」・「後期」という区分としています。 その中でも取り分け重要な取り組みをリーディングプロジェクトとして位置付けています。
40	倍増するためのインフラ整備のビジョンを明示すべきではないか。	C	本ビジョンでは、事業熟度が高く、進捗が見込まれるインフラ整備を記載しています。その他のインフラ整備については、今後策定される総合計画の後期基本計画の中で検討していきます。
41	城址公園本丸広場に長屋風の店舗を市が整備し、小田原おでん、片浦みかん関連、小田原漁港関連、伝統工芸関連の店舗を民間が定期借家契約で運営してはどうか。	B	国指定史跡内である本丸広場にご提案の店舗を整備することは国の許可の面で難しいと考えますが、物産館等の開設については、ロードマップに記載しており、具体的な内容については、開設場所等を含め今後の検討課題と考えています。
42	小田原競輪が開催していない期間に、飲食店を使ってのパーティーができると良い。	D	費用対効果、実施主体などを勘案し、実施の可能性も含めて検討します。
43	小田原の特産を利用した茶屋やアンテナショップなどの整備が必要。	B	「間口」に小田原の「光」が見える仕組みづくりとして、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
44	平成34年度までに大外郭を整備し、観光ルートとして活用できるようにする。	B	大外郭の整備については、八幡山古郭・総構整備事業に位置付けられ、文化財保護活用の視点で整備を進めています。 また、回遊プランの作成については、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。

45	来訪客に小田原駅周辺や小田原城周辺以外のスポットへ足を延ばしてもらうために大々的なPRを打つ。	B	回遊プランの作成や広域かつ一元的な情報発信として、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
46	小田原駅から小田原城への回遊ルートを数種類作成が必要ではないか。	B	回遊プランの作成として、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
47	御幸の浜で食事、体験型スポットの設営があると良い。	B	海、山、里なりわいを活用した旅行商品の開発と、小田原ならではの食の推進として、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
48	駅前商店街での共通ランチ券の導入した方が良い。	B	小田原ならではの食の推進としてロードマップに記載しており、商店街の意向も確認しながら今後検討していきます。
49	小田原の文化を力いっぱい発信していくと良い。	B	ターゲット別のPR戦略立案・実施として施策の柱に位置付け、戦略的な情報発信をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
50	ネットを含め、広告媒体の重要性を認識し、情報発信すべき。	B	ターゲット別のPR戦略立案・実施を施策の柱として位置付けており、提案の方向で戦略的な情報発信をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
51	海外からの認知度向上（旅行先に小田原を選択してもらう）のための事業を追加するべきではないか。	B	外国人来訪客の受入環境整備として、施策の柱に位置付け、海外プロモーションの実施をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
52	台湾、韓国、香港へ小田原キャラバンとしての合同営業活動が必要ではないか。	B	海外プロモーションの実施として、ロードマップに記載しており、その中で今後検討していきます。
53	エージェントを呼び込み、ファミツアーの毎月開催が必要ではないか。	B	海外プロモーションの実施として、ロードマップに記載しており、その中で今後検討していきます。
54	マリンレジャーが楽しめるマリナーを建設してはどうか。	B	マリンツーリズムの研究として、ロードマップに記載しており、その中で今後検討していきます。
55	海の交通を強化して、別のゴールデンルートを作る取り組みが必要ではないか。	B	マリンツーリズムの研究として、ロードマップに記載し、その中で今後検討していきます。

56	「海の観光資源を活かしたマリントーリズムについても研究を進める」とあるが、たたき台となる具体案はないのか。	B	マリントーリズムの研究として、今後検討していきます。
57	早川漁港で団体への朝食提供があると良い。	B	小田原漁港交流促進施設整備推進、海なりわいの朝定食の提供をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
58	ベロタクシー、セグウェイのレンタルも楽しくまち歩きができる方法ではないか。	B	観光インフラ整備として施策の柱に位置付け、二次交通の拡充として新たな移動手段の研究をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
59	新幹線「ひかり」の増便や、「のぞみ」の小田原駅停車などを提言すべきではないか。	C	新幹線の増便等については、周辺市町とともにJR東海へ毎年要望活動をおこなっていますので、今後の参考とします。
60	宿泊施設の充実を図るのであれば、ビジョン内でもすぐに取り掛かるべきではないか。	B	宿泊施設の誘致促進はロードマップに記載し、その中で進めていきます。
61	宿泊施設の整備に関して、小田原駅周辺に高さ制限は必要ないのではないか。	D	小田原駅周辺地区における高さ制限については、都市計画の視点から判断されるものと考えています。
62	回遊してほしいエリア毎に観光バス用・一般車用の駐車場を整備し、小田原を訪れる前に観光ルートを選定できるようにする。	B	観光バス駐車場整備の推進として、ロードマップに位置付けています。
63	藤棚臨時バス駐車場に代わる駐車場の候補地等はあるのか。	B	観光バス駐車場整備の推進として、ロードマップに位置付けています。 候補地等については、今後、小田原駅周辺において進められる各種事業による機能配置の中で検討していきます。
64	一般車用の駐車場が不足しているため、城址公園に至近の場所に一般車用の駐車場を設けるべき。	C	小田原市駐車場整備計画が策定され、その中で位置付けられています。
65	空き家、空き物件を外国人観光客のバックパッカーなどが素泊まり出来る宿泊施設にしてはどうか。	B	観光まちづくりへの市民参画の促進として施策の柱とし、民泊の研究をロードマップに記載し、その中で進めていきます。

66	観光案内所の言語対応は不十分ではないか。	B	外国人来訪客の受入環境整備として施策の柱に位置付け、観光案内所の言語対応についてロードマップに記載し、その中で進めていきます。 なお、現在の観光案内所は、観光庁の外国人案内所の認定を受けています。
67	より広範囲で統一的なWi-Fiの整備、運用が必要ではないか。	B	Wi-Fiスポットの設置として、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
68	インバウンド対策の一環として、指差し英会話表を小田原駅周辺の商店に設置する。	B	多言語案内シート等の活用推進として、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。
69	小田原の特産物・特産品などがある免税店が出来れば外国人観光客が購入するのではないか。	B	外国人来訪客の受入環境の整備を施策の柱とし、免税店舗活用講座の開催事業をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
70	地域のプロフェッショナルのガイドツアーを市民の方が活用する仕組みがあると良い。	B	観光まちづくりへの市民参画の促進として施策の柱に位置付け、市民が参加するモニターツアーなどロードマップに記載し、その中で進めていきます。
71	小田原で住み暮らすメリットを中高生時代から教養として知識化させる必要があるのではないか。	B	観光まちづくりへの市民参画の促進を施策の柱に位置付け、次世代を対象とした参画組織等の創設をロードマップに記載し、その中で進めていきます。。
72	多くの学生を観光まちづくりへ巻き込めるような仕組みづくりが必要ではないか。	B	観光まちづくりへの市民参画の促進を施策の柱に位置付け、次世代を対象とした参画組織等の創設をロードマップに記載し、その中で進めていきます。。
73	小田原検定や学生ボランティアなどの活用を検討すべき。	B	小田原検定については、観光資源の再評価・発掘を行える体制づくりとして、ロードマップに記載し、その中で進めていきます。また、学生ボランティアなどの活用については、次世代を対象とした参画組織等の創設としてロードマップに記載し、今後検討していきます。
74	小田原（近隣）在住の外国人の方々に、観光案内所やガイド等を担ってもらう。	B	外国人来訪客の受入環境整備として施策の柱に位置付け、外国語対応ガイド育成をロードマップに記載し、その中で進めていきます。
75	小田原市が行政として具体的に取組むことと、民間がやることの具体的なイメージを示すべきではないか。	A	本ビジョンでは、ロードマップの各事業に実施主体を明記していますが、平成34年までのロードマップの項に、「観光に関する役割」を追記しました。

76	どこが主体となって取組みを始めるといった記載があっても良いのではないか。	A	平成34年までのロードマップの項に、「観光振興に関する役割」として追記しました。
77	平成28年から各施策が動き出せるように書かれているが、誰が動きださせるかが、不明である。	A	平成34年度までのロードマップの項に、「観光振興に関する役割」として追記しました。
78	民間企業を含む「事業所」、行政、商工会議所との連携をさらに進めるべき。また、周辺地域との連携も図るべき。	A	観光振興に関する役割として、連携・協力の必要性を追記しました。周辺地域との連携については、地域DMOの機能の1つ（「広域連携」）として記載しています。
79	「歴史文化コンテンツを有効活用した取組み」とあるが、具体的にどのように取り組むのか。	B	個別事業の詳細として記載し、その中で進めていきます。